

# 公益財団法人日本宇宙少年団 令和5年度 事業計画書

## はじめに

前理事長 松本零士先生のご訃報に接し、日本宇宙少年団関係者一同、謹んで哀悼の意を表します。

新型コロナウイルスの国内感染確認から3年が経ちました。これまで、財団の事業活動は、感染症対策と社会経済活動の両立を図りながら事業活動を行ってきましたが、全国の分団活動は、収束の見通しが立たない中でオンラインを駆使するなど、関係者の努力や協力の下で実現することができました。

このような努力の結果、コロナ禍で減少が続いていた団員数にも改善が見込まれ、喜ばしい結果となっております。

そして今年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に位置づけられる見通しですが、スペースキャンプ事業は引き続き感染拡大防止対策を講じながら参加人数を増やし、実施していく予定です。

公益財団法人日本宇宙少年団の活動は、全国の指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助及びご寄附下さる関係各位やのご理解とご支援により財団運営が遂行できましたことについて、心より感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

## I. 人材育成事業（公1）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信（宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等）事業
3. webによる普及啓発事業
4. 40周年記念事業（特定費用準備資金）

### 1. スペースキャンプ事業

#### (1) 種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島を中心に、「宇宙・自然・交流」をテーマとした体験学習を行います。

種子島では、JAXA種子島宇宙センターの見学や専門家による講義やロケット工作と打上げ、そして種子島の歴史に触れる体験プログラムを行います。

今年は、種子島の隣、屋久島に足を延ばし、宇宙飛行士サバイバル訓練を模擬して大自

然の中をチームでトレッキングし、互いに助け合う心、コミュニケーション力、リーダーシップ等を育むプログラムを加え、これまでと異なるスペースキャンプを行います。

全国から集う異年齢の小中学生を対象に、子ども達に「本物」に触れ学ぶ喜びを分かち合い、興味・感動を引き出す機会を提供します。

時期：夏休み（4泊5日）

場所：鹿児島県・種子島、屋久島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

## （2）筑波スペースキャンプ

筑波宇宙センターの環境試験設備の見学や実験を通して、科学的な考察を以ってロケットや衛星、有人宇宙活動についての理解を深めるプログラムを実施します。

さらに、異年齢のグループ活動ではコミュニケーション力を養い、宇宙飛行士の心身ともに鍛えることの大切さや宇宙開発の現場のチームワークの重要性について専門家から講義を行います。

時期：春休み（3月）3泊4日

場所：JAXA筑波宇宙センター

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般

## （3）宇宙レポート in 種子島

今年度、種子島宇宙センターから打ち上げられるロケット及び衛星の応援企画として「YAC宇宙レポート in 種子島」を計画します。

時期：未定

場所：鹿児島県・種子島

対象：団員及び一般の親子

## 2. 情報発信

### （1）宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集に協力します。この情報誌「宇宙のとびら」をJAXA宇宙教育センター（発行）及び公益財団法人日本宇宙少年団（編集協力・団員配布）の連携により、年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立てます。

### （2）YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、情報誌「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

### （3）団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を制作・送付します。

#### (4) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

また、今年度中にホームページのリニューアルを図り、分団活動等ページを見やすくします。

### 3. Webによる普及啓発活動

#### (1) 分団等連携団体との協力推進

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、分団等連携団体との連携を図るため、活動委員会が中心となり、全国の宇宙少年団分団との協力推進を行うとともに、体系的な指導方法や共通した育成方法を毎年分団長が集う「分団長会議」の場で実践例を紹介したり、意見交換及び交流等を行います。

なお、分団長会議の場で活動委員会が提案する共通プログラムをweb上で開催し、各分団の参加を促します。今年度は、11月25日(土)～26日(日)に都内で開催する予定で、オンラインでの参加も可能とすることでできるだけ多くの分団長の参加を計画します。

#### (2) 活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集や宇宙教育誌をwebで公開し、活動の素材提供、宇宙時代の教育について考える場、宇宙と教育についての考察の場、宇宙教育の実践研究報告の場を提供します。

#### (3) webを通じたイベントの取組み

財団主催及び共催で実施するスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等を、webを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。また、YouTube Liveなどのライブ配信機能を活用し、全国各地の団員が宇宙について学び、質問ができる機会を提供します。

#### (4) 講師派遣等

社会教育団体等で活動する指導者の育成を目的とするセミナーを、JAXA宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら実施します。また、青少年や一般を対象にその他事業として、外部のリモートによるイベント、対面によるイベント等に講師を派遣し、宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

### 4. 40周年記念事業(特定費用準備資金)

財団設立から35年が過ぎ、財団設立の時代から社会情勢の変化や多様性が高まる時代に変化し、この先、公益財団法人日本宇宙少年団や分団、宇宙教育はどうあるべきか、設立40周年を迎える時期までに、財団はどこを目指すべきかを探るためのとりかかりとして、今年度は、団員や分団へアンケート調査を行います。

時期：2023年4月を予定

対象：YAC団員及び指導員

内容：これからの宇宙少年団活動について、こうなったらいいなと思うこと等

## II. 管理運営等

### 1. 会 員

新型コロナウイルス感染症の流行からようやく日常が戻りつつあり、昨年は新規分団として1分団の設立があり、また、全国の分団活動も対面式になるなど、徐々に新規団員も増え始めています。

その一方で、集団感染のリスク回避のため、活動を中止するなど慎重な分団もあるため、全国の分団活動状況調査を必要に応じて最低1年に1回は実施し、全国の分団活動状況や活動計画を把握する手掛かりにしていきます。

併せて、全国の分団には、活動実施後の活動報告を、YACのHPに掲載するように促していきます。

また、日本宇宙少年団活動も35年以上が経ち、多くの団員やリーダーが卒業しています。団員の子ども以上に保護者や一般にも宇宙や科学技術に興味を持つ方も多くおり、多様な団員の有り方、つながり方を検討していき、新しい団員の獲得に繋げていきます。

### 2. 事務局体制

#### (1) 要員

事務局は、昨年度に続き、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名体制で事業の運営及び管理業務に当たります。また、スペースキャンプ事業等の実施には、当財団役員が講師となり、専門性を活かして積極的に関わってもらいます。

#### (2) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、各それぞれの事業の報告を行い、次年度の継続や新規営業、PR等、積極的に努めます。

以 上